

# 済生会 110周年式典

THE NEWS SAISEI



発行所 社会福祉法人 済生会  
東京都港区三田1-4-28 三田国際ビルディング21F 〒108-0073  
電話 03-3454-3311  
FAX 03-3454-5576  
編集兼発行人 炭谷 茂

https://www.saiseikai.or.jp/

# ニュース 済生

## 高松宮記念基金にご協力ください

令和4年1月～2月分実績

◎本会会員加入状況	35,043人	82.4%
	39,293口	7,858万円
◎外部会員加入状況		
◎一時寄付状況	6件	23万円
	(内、自取機関係)	5万円
◎募金箱		11万円

## 秋篠宮皇嗣殿下おこし

済生会創立110周年記念式典が2月27日、東京都港区の明治記念館で開かれ、本会役員124人が出席した。当初、神戸市で開く第74回済生会学会・令和3年度総会と同時に開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症まん延で学会は誌面開催に変更、総会は中止となったため記念式典のみ明治天皇ゆかりの会場に変えて実施。感染症対策として出席者を限定し、全国の済生会施設にはWebで配信した。



社会福祉法人 済生会 創立110周年記念式典

国歌は飛まつ拡散防止のため斉唱ではなく演奏だけとした。炭谷茂理事長が「生活困窮者を取り巻く問題は複雑化し、新型コロナウイルスのまん延で社会の分断が激しくなっている。済生会は誰一人取り残さない地域社会を実現するため、新たな事業の展開を視野に住民の健康と暮らしをどこまでも守っていく」と式辞を述べた。

本部の松原了理事は、済生会の10年間の活動をスライドで紹介。無料低額診療事業や生活困窮者支援事業(なでしこプラン)の活動報告、自然災害や新型コロナウイルスへの対応などを説明した。医療施設や福祉施設の整備では、高度医療を提供する設備の導入を説明。人材の確保・育成の取り組みも報告した。

掲載)。創立100周年からの10年間に功績のあった57人と1団体が特別表彰され、代表の福岡総合病院・岡留健一院長、中央病院の佐藤弘恵院長(看護師)、山形・特養ながまら荘の会田るみ業務主査(介護福祉士)が登壇した。

本会の未来を考えるシンポジウムも開催 式典の後、第二部として「済生会の明日を語る」と題したシンポジウムを開催。炭谷理事長が提言・進行を行ない、シン

## 「困窮者」の呼称検討を

### あり方 公的病院の役割、明確に

第5回・支部未設置県解消済生会の基本的あり方に関する検討会が3月3日、本部で開かれた。はじめに前出された、全施設に広報担当を置くことについて検討した。専門人材の配置は寄付金獲得にもつながるとして各施設で実施すべきとの提案があった。

D X人材育成が必須 事務局が「デジタル・トランスフォーメーション(DX)」について本会が取り組むべきDXの方向性及び推進にあたっての課題について説明。委員からは「医療界の意識改革にもつながる分野なので、法人として積極的に取り組むべき」「システム集約化やネットワークセキュリティ、インフラ強化は法人全体で中

長期的に取り組むべき」「済生会側でベンダー等と対等に話し合える人材を育成していくべきではないか」などの意見が出された。「グリーン社会の実現」については事務局から①役職員の意識改革②温室効果ガス削減への取組③循環型社会への取組などの論点が提示された。委員からは「省エネにより電気代等の費用を3分の1まで削減できた事例もあり、経済的メリットも十分ある」「病院や福祉施設単体で進めるのではなく、自治体や企業を巻き込んだ取組が必要」「今後、医療廃棄物をはじめとする各種廃棄物は大きな問題となるため、済生会全体で率先して取り組みを行なうべき」などの意見が出た。

は在宅患者への医療体制がせいぜい弱であることが今回の新型コロナウイルスで顕著になった。済生会には在宅患者の支援に力を注ぐとともに、高齢者、障害者、子ども等幅広い対象者の人権を重視した医療、福祉、生活を支援するなど、国の枠を越えた地域包括ケアの推進についても意見を出した。

「済生会の理念」について事務局から①本会が支援する人々を「社会的な支援を要する人」と幅広くとらえてはどうか②3本柱の充実・発展による「ソーシャルインクルージョン」の理念に基づき「まちづくり」への取り組みを強化すべきとの論点が示された。

委員からは主に次の意見が出された。「社会情勢の変化とともに本会が支援する人も変わっていくため、社会的な支援を要する人という考え方は適切だ」「済生会はどんな対象者にも分け隔てなく支援を実施してきたことから、ソーシャルインクルージョンの考え方がこれまでの活動を包摂している」「理念を実行に移すための手立てとして各種団体との連携も重要

## 4議案を審議

### 施設運営委員会

施設運営委員会が3月1日、本部で開かれた。審議4件、報告6件だった。

【審議】①令和4年度整備計画(案) ②令和3年度整備計画変更(案) ③資金借入④令和4年度財政調整事業資金等事業計画及び予算(案)

【報告】①若草病院の事業計画の取り扱い②病院

## 済生バツクナンバー検索を

機関誌「済生」は、大正10年6月に第1号を発行。令和4年1月には通算111号を迎え、掲載しています。(広報室)

「公的医療機関としての済生会の役割」については、事務局は「公的医療機関としての本会の使命を本会は果たしていくべき」などの意見が出た。次回の第6回検討会は5月に開催、「支部未設置県への支部復活について」「これまでの検討結果」を議論する予定。(総務課・総合戦略課)



経営状況③老健・特養の経営状況④無料低額診療実施状況⑤共同購入推進専門小委員会の結果概要⑥新型コロナウイルス感染症の対応 (経営管理課)

# 北海道・済生会ビレッジ きつずてらす DuO開設

北海道済生会は3月1日、大型商業施設・ウィングベイ小樽内の済生会ビレッジに、発達支援事業所「きつずてらす」の2号店となる「きつずてらすDuO(デュオ)」を開設した。「利用者や職員が二人三脚で子どもの成長を支援していく」という願いが施設の名称に込められている。「きつずてらす」は2021年3月1日に医療・



介護・子育て等の相談支援、市民の健康増進や多世代交流を目的とした「済生会ビレッジ」の一事業としてオープンした。障害のある子どもの発達年齢や個々の能力に応じて、保育士、作業療法士、言語聴覚士等「きつずてらす」と「きつずてらすDuO」の合計12人のスタッフが、言語や学習、コミュニケーションなどの社会適応能力の向上を目的に、児童発達支

### 水災補償に限度額設定

#### 損害填補審議会

済生会が所有する建物や機械等の損害を補償する「損害填補事業」の適正な運営を行なう損害填補審議会が2月17日にWebで開催された。

審議事項は損害填補事業の火災保険契約における水災補償の条件変更(案)と、令和4年度損害填補事業計画及び同会計予算(案)の2件。審議の結果、それぞれ原案通り承認された。

損害填補事業の火災保険契約における水災補償の条件変更(案)は、近年の自然災害の増加に伴い、事業の安定運営を図るため、従来は無かった



水災補償に支払い限度額の設定をすることを議論。大の付保対象物件の保険金額(350億円)とな

令和4年度事業計画及び予算(案)は、損害填補掛金収入を2億3000万円、保険金収入を300万円、利息等収入を4100万円とし、収入合計を2億7400万円と見込んだ。

支出は、再保険料を6500万円、損害填補金の支払いを5300万円とし、諸経費400万円を加えて合計1億2200万円を見込んだ。

この結果、令和4年度の収支差額は約1億5200万円となり資産総額は、約51億円となる見込み。

(高松宮記念基金・令和基金対策室)



### DXへの基本方針を審議

#### 情報化推進委員会

情報化推進委員会が3月8日、本部で開催された。DX(デジタル・トランスフォーメーション)に対する基本方針案を審議した。

DXへの対応方針についてはすでに4回にわたって検討。今回は、この結果を踏まえ事務局が提示した基本方針の案文に対し意見を交わした。

基本方針は「医療・福祉」。

退職手当等事業運営委員会が3月10日、Web会議で開催された。

議案は「令和4年度退職手当等事業計画及び同会計予算(案)」の1件で、同年度の登録者数を1万3800人、支給対象となる退職者数を635人と予測した。これをもとに、積立金収入を36億2100万円、支出される退職手当金を25億3100万円と見込んだ。

審議の結果、原案どおり承認され、理事会及び評議員会へ上程される。

(厚生課)

### 令和4年度予算案承認

#### 共済事業運営委員会

共済事業運営委員会が3月8日にオンラインで

援事業(0~6歳)と放課後等デイサービス(7~18歳)を実施している。ほかにも保育所や幼稚園、自宅を訪問して支援する保育所等訪問支援事業・居宅訪問型児童発達支援事業も行なっている。

きつずてらすは、ウィングベイ小樽内にある屋内遊園地と連携したプログラムの実施など、開設当初から注目を集め、利用待機者が出るなどニーズの高まりを受けて新たな施設の開設を検討していた。

今後は、医療的ケア児の受け入れも行ない、地域の子どもと保護者に専門的な支援を提供していく予定。

(きつずてらす 作業療法士 小玉武志)

社の質、患者(利用者)サービスの向上、「業務の効率化と生産性向上」「サイバーセキュリティへの対応」の3点。推進にあたって取り組む事項として「法人内連携の強化」「システムの共同購入・集約化」「人材育成と組織体制」「サイバーセキュリティ対策」「データヘルス改革(国の政策)への対応」の5点が示された。

委員から、3月3日開催の「支部未設置県解消等済生会の基本的あり方に関する検討会」で広報強化の重要性が示されたことから本方針の中でも触れるべき等の意見があった。これを踏まえ、案文の一部を修正して書面による再審議を行なったうえで、基本方針を策定することとなった。

PCの共同購入についての報告もあった。

(情報管理課)

### 積立は約36億円

#### 退職手当等事業運営委員会

退職手当等事業運営委員会が3月10日、Web会議で開催された。

議案は「令和4年度退職手当等事業計画及び同会計予算(案)」の1件で、同年度の登録者数を1万3800人、支給対象となる退職者数を635人と予測した。これをもとに、積立金収入を36億2100万円、支出される退職手当金を25億3100万円と見込んだ。

審議の結果、原案どおり承認され、理事会及び評議員会へ上程される。

(厚生課)

### MSW・生活困窮者支援研修会に75人参加

令和3年度MSW・生活困窮者支援事業研修会が2月25日に本部で開催され、75人がオンラインで参加した。

炭谷茂理事長は「済生会におけるMSW事業の理論と方法」と題し、「MSWは地域課題の解決の中心になるべき存在。皆さんが日本の医療ソーシャルワーカーをリードしてほしい」と訴えた。続いて早稲田大学人間科学学術院の岩崎香教授は「精神障がい者への理解」について講演。(愛

開かれ、令和4年度事業計画及び同会計予算(案)を審議、原案どおり承認された。

同計画(案)では、共済員数を2万5807人と見込み、支給対象となる退職者数を2235人と予測した。これをもとに、掛金収入及び有価証券配当金収入等の合計を97億4800万円、支出される退職給付金等を73億3200万円と見込んだ。

令和4年度は収支のバランスを確認するため3年に一度実施している数理計算を行なう予定。

(厚生課)

### 指導医ワークショップオンラインで24人参加

第46回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップが2月12~13日、2日間にわたり本部主催で開催され、21病院から24人が参加した。新型コロナウイルスの影響により昨年9月に続き、今回もオンラインで実施。グループワークはZoomのブレイクアウトセッション機能やGoogleのアプリケーションを活用した。医師臨床研修専門小委員会の塩出純二委員長(岡山済生会総合病院院長)が開催責任者となり、チーフタスクフォースの金原秀雄・福井県済生会病院内科部長のほか、本会病院から参加した6人のタスクフォースが受講者をサポート。事務局は本部職員4人が務めた。

主なテーマは、研修医が行なう研修プログラム立案。目標設定、研修方法(方略)、評価等指導に必要な知識と技術についてグループワークで学んだ。塩出委員長や京都大学の小西靖彦教授の講演も盛り込まれた。

受講者からは「具体的な指導医として必要なことを学べた」「タスクの先生のサポートが非常に適切で議論をうまくまとめることができた」「オンラインでも踏み込んだ議論ができた」といった声が寄せられた。

(社会福祉・地域包括ケア課)

援)今治病院総合医療支援室の松岡誠子氏が無料低額診療事業等の取り組みを報告、具体的な実践を共有した。

グループワークでは、受講者が13グループに分かれ、精神障害者への支援、コロナ禍における無料低額診療事業・生活困窮者支援事業への取り組みなどを議論。

「ソーシャルインクルージョンの実現に向けて地域に出て活動していきたい」「済生会のMSWとして、病院だけでなく地域での課題などに視野を広げていきたい」「コロナ禍においても済生会の理念をもとに業務を遂行していく重要性を改めて考えさせられた」との声が聞かれた。オンラインでの開催については「子育てや介護等で現地にいけない職員も参加しやすいありがたい」と好評だった。

本研修は厚労省の認定を受けて開催。参加者は16時間以上のプログラムを受講が求められる。平成18年2月の第1回開催以来、修了者は13388人に達した。

今回は24人の定員に対し41人の応募があり、オンライン受講できる本ワークショップへのニーズが高いものとなった。

(事業推進課)

受講者からは「具体的な指導医として必要なことを学べた」「タスクの先生のサポートが非常に適切で議論をうまくまとめることができた」「オンラインでも踏み込んだ議論ができた」といった声が寄せられた。

- ### 寄贈
- 東京都済生会 100万円
  - 陳科栄殿 100万円
  - 小倉律子殿 90万円
  - (中央病院へ)
  - 愛知県済生会 50万円
  - 加藤庸子殿 50万円
  - (愛知県青い鳥医療療育センターへ)
  - 三重県済生会 30万円
  - 西井正美殿 100万円
  - (松阪総合病院へ)
  - 大阪府済生会 30万円
  - 今西謙太郎殿 30万円
  - (千里病院へ)
  - 愛媛県済生会 為頼小夜子殿100万円
  - (西条病院へ)
- ### 人事
- 群馬県済生会 副会長 大野誠司 1・27
  - 新任 4月の予定
  - 5日 支部長会議
  - 8日 医療施設長会議
  - 14日 福祉施設長会議
  - 20日 看護部長・副学校長会議

